



2018
社会・環境
貢献緑地

快適で魅力ある街並みを演出する緑地環境 『SEGES (社会・環境貢献緑地評価システム): 都市のオアシス』

—企業が所有する社会と環境に貢献する全国2箇所の緑地を認定—

公益財団法人都市緑化機構（会長 矢野 龍）では、猛暑やヒートアイランド現象等で悪化する都市環境において、人々にとって安らぎと憩いの貴重な環境となっている、緑地の重要性の普及啓発を目的としたSEGES（シージェス）「都市のオアシス」の認定を行っています。今回、新たに2箇所の認定緑地を以下のとおり決定しました。

- ① なんばセントラルプラザ リバーガーデン （大阪府大阪市浪速区）
- ② 赤坂インターシティAIR （東京都港区）

■ 都市のオアシスの定義

「都市のオアシス」とは、下記の要件にあてはまる民間事業者が設置もしくは管理をしている緑地です。

■ 認定基準

市街地(市街化区域内)に位置し、以下の条件を満たす民有の緑地

公開性	一般の多くの人々が利用可能で、アクセスしやすい場所に設置されている
安全性	管理者が明確で日常的な維持管理がなされ、利用にあたっての安全性が確保されている
環境への配慮	都市の温暖化の抑制や生物多様性の保全など環境に対する配慮がなされている

SEGES「都市のオアシス」は、書類審査及び現地審査をもとに上記の認定基準により、SEGES評価・認定委員会にて判断するもので、今回の認定において、「都市のオアシス」は47箇所となりました。詳細はSEGESホームページ(<https://seges.jp/>)をご覧ください。

今後も全国にSEGES「都市のオアシス」の普及と認定緑地の拡大に努めてまいります。

なお、本事業は住友林業株式会社の特別協賛を頂いております。

■ 候補地選考から表彰までの流れ

申込(書類審査)	現地審査	認定委員会	認定式
平成29年11月～平成30年3月	平成30年1月～平成30年3月	平成30年3月14日	平成30年10月予定

■ 認定緑地 別添資料1「SEGES:2018 都市のオアシス」認定一覧をご覧ください

■ 認定方法 下記委員によるSEGES評価・認定委員会において認定

委員長	丸田 頼一	千葉大学 名誉教授
	仙田 満	東京工業大学 名誉教授
	井上 洋	一般財団法人ダイバーシティ研究所 参与
	海野 みづえ	株式会社創コンサルティング代表
	斎藤 正一	株式会社日経BP社 環境ビジネス本部 環境経営フォーラム事務局長
	鈴木 敏央	株式会社 鈴木敏央 ISO 事務所 代表取締役
	古澤 達也	国土交通省都市局公園緑地・景観課 緑地環境室長
	宮下 和正	公益財団法人都市緑化機構 専務理事
(制度担当)	寺田 良二	PwC サステナビリティ合同会社 執行役員

(敬称略)

お問い合わせ先 公益財団法人都市緑化機構 SEGES「都市のオアシス」担当 菊池・柳本
〒101-0051 千代田区神田神保町 3-2-4 田村ビル 2階
電話:03-5216-7191 FAX:03-5216-7195 E-mail: kikuchi@urbangreen.or.jp

SEGESとは (シージェス・社会環境貢献緑地評価システム)

SEGES(Social and Environmental Green Evaluation System)は、企業の保有・創出する緑地事業について、地球温暖化やヒートアイランド現象の緩和、地域生態系の保全、良好な景観の保全と創出、地域社会とのコミュニティ醸成や安心・安全なまちづくり等、社会や環境に貢献していることから、その都市緑化事業を(公財)都市緑化機構が認定するものです。SEGESでは3つの認定部門『そだてる緑』『都市のオアシス』『つくる緑』から構成され、これまでに116箇所の企業緑地を評価してきました。この中で、特に『都市のオアシス』と『つくる緑』は、建設・開発事業者の都市緑化への取組みを評価・認定するものです。SEGESは政府が定める「生物多様性国家戦略2012-2020」や「低炭素まちづくり実践ハンドブック」、「生物多様性民間参画ガイドライン」等にも記載されている評価システムです。



SEGES (社会・環境貢献緑地評価システム): 2018 都市のオアシス 認定一覧

	認定サイト	形態	所在地	事業社	写真
1	なんばセントラルプラザ リバーガーデン	地上緑地	大阪府 大阪市 浪速区	リバー産業 株式会社	
2	赤坂インターシティ AIR	施設内緑地	東京都 港区	新日鉄興和不動産 株式会社	